

<参考資料>

■JCBの新キャンペーンについて

消費意欲が減退する昨今、消費者の財布のひもは固くなり、それがまた更なる不安を助長するという悪循環が続いています。買い物＝ぜいたく、無駄遣い＝よくないこと、という考え方もありますが、かつて内閣総理大臣・大蔵大臣等を歴任した高橋是清氏は次のように言っています。「(前略)仮に或る人が待合に行って、芸者を招んだり、贅沢な料理を食べたりして二千円を消費したとする。是れは風紀道德の上から云へば、さうした使い方をして貰ひ度くは無いけれども、仮に使ったとして、(中略)その金は転々して、農、工、商、漁業者等の手に移り、それが又諸般産業の上に、二十倍にも、三十倍にもなって働く。故に、個人経済から云へば、二千円の節約をする事は、其の人に取って、誠に結構であるが、国の経済から云へば、同一の金が二十倍にも三十倍にもなって働くのであるから、寧ろ其の方が望ましい訳である。」

つまり買い物自体は、買い物をした本人を元気にするばかりでなく、世の中を元気にする行為でもあります。

そこで、JCBでは、「買い物は、世界を救う。」というテーマで、「買い物」という行為自体のイメージを変え、世の中を元気にしていく新キャンペーンを展開します。

■新聞広告について

キャンペーンを開始する5月24日(月)に、高橋是清氏の文章を引用した新聞広告を実施します。

■二宮和也さんの起用について

2010年、JCBの新しい“顔”となるイメージキャラクターには、歌手として活躍する一方、俳優としても高い評価を集めている二宮和也さんを起用しました。数々の大作映画や人気ドラマに出演し、その演技力が国内外の関係者から高い評価を集めている二宮さん。今回のCMでは、二宮さんの演技力に加えて、ふだん見せないコミカルかつチャーミングな一面を引き出すことで、メインターゲットである若者たちに向けて、JCBが“元気で勢いのある楽しいブランド”だというイメージを訴求していきます。

■TV-CMについて

今回の新キャンペーン及び新CMのテーマは「買い物は、世界を救う。」。一見他愛のないと思えるような日常の買い物でも、その積み重ねが実は世の中全体の消費を刺激し、巡り巡って世界をハッピーにする行為であることを、「HAT」篇、「氷山」篇の2タイトルを通じて、ユーモラスに描いていきます。最大の見どころは、ふだんなかなか見ることができない、二宮さんがお笑い芸人に挑戦するシーン(「HAT」篇)と、二宮さんが買った帽子を破ったり、オカリナをものすごく下手に吹いたりしたら、なぜかそれをきっかけに、世の中がどんどん良くなっていくシーン(「HAT」篇・「氷山」篇)。いずれも通常なら60秒CMで描くような盛りだくさんの内容を、それぞれ15秒CMにギュッと凝縮した作品で、短編映画を見ているかのような目にも止まらぬスピード感、抜群のお笑いセンスと飄々とした演技で、周りをポジティブにかき回していく二宮さんのお芝居は必見です。

■CMストーリー

「HAT」篇(15秒)

街の帽子屋さんにて。店員に「JCBで」とJCBカードを提示し、帽子を購入した二宮さん。帰り道、さっそく買ったばかりの帽子を被ろうとします。ところが、ちょっとサイズが小さかったのか、ツバのところをグッと下に引っ張った瞬間、何と「バリッ」と破れてしまい、破れた帽子とツバの隙間から顔が出てしまいます。「あれっ」と呟く二宮さん。その姿を見て、通行人がくすくす笑っています。と、偶然その場面に居合わせた芸能プロダクションのスカウトマンが、「ちょちょちょ、お笑いやる？」と名刺を差し出し、二宮さんをスカウトします。数日後、お笑いの舞台で芸人デビューすることになった二宮さん。破れる帽子の持ちギャグで、観客から大受けしています。最前列で大笑いしているファンの子たちは、「笑うとお腹減るよね」と、その足で近くの牛丼屋へ。おかわりまで頼むほど旺盛な食欲を見せる店の外では、長い行列が出来ています。ご飯が売り切れで困った店長は「米、足りない！」と、本部に電話をかけます。舞台は変わって、巷の米不足に猫の手も借りたいほど忙しい一軒の農家。「じっちゃんも手伝って！」と、高齢のおじいちゃんまで駆り出され、米作りを手伝わされています。そんなある日、おじいちゃんが掘った穴から、突然黒い液体が噴き出し、何とそれは石油でした！ここでテレビ映像に切り替わり、画面の中では日本人とアラブ人が報道陣のフラッシュを浴びながら、万歳三唱をしています。そのシーンを、自宅のテレビで何気なく見ている二宮さん。「景気、いいかも」と呟きながら、帽子を縫っています。最後に「買い物は、世界を救う。JCB。」で締め括ります。

「冰山」篇(15秒)

街の楽器屋さんにて。店員に「JCBで」とJCBカードを提示し、オカリナを購入した二宮さん。帰り道、さっそく買ったばかりのオカリナを歩きながら吹いてみると、とんでもなく下手な音が鳴り響きます。彼が通り過ぎた後の景色には、あまりにヒドイ音で、突然頭痛を催し、発熱でもがき苦しむ人々が大勢。駆け付けた救助隊員の一人が、「すごい熱です。氷がいる！」と叫んでいます。発熱を冷やすために、氷屋さんに押し寄せる人々。しかし氷はすでに売り切れで、店主も平謝りです。ここで対策を発表した政府の高官。報道陣の前で「じゃ冰山」と、冰山と書かれた額を掲げます。タンカーに引かれた大きな冰山が海上を進む俯瞰からの映像。「東京に冰山がっ…」というヘリコプターの実況が入ります。上陸した冰山の前に集まった大勢の野次馬や報道陣。ところが次の瞬間、冰山の一部が崩落し、そこから氷詰めのマンモスが姿を現します。「マンモスだ！」。世紀の発見を記念して、さっそく開催された「大マンモス博」。花火が上がる会場には、世界中から多くの観光客とマスコミが集まり、大いに賑わっています。タクシー運転手のインタビューでは「チップ(だけ)で生活した月もありました」と、その様子を自宅のテレビで、友達二人と見ていた二宮さん。「景気いいじゃん」と言っ、オカリナを吹いた瞬間、後ろでは相変わらず友達二人が悶絶。最後に「買い物は、世界を救う。JCB。」で締め括ります。